

鉄筋形状が異なる場合の超音波探傷試験について

鉄筋径が異なる場合、または異径棒鋼とネジ節鉄筋をCB工法によって繋いだ場合における超音波探傷試験について、鉄筋外周部において欠陥が発見される場合が多くある。

これは鉄筋断面の形状が異なるため、外周部に段差が出来るためである。

段差部において超音波探傷試験を行うと、超音波が段差部で跳ね返ってしまうために、欠陥と表示されてしまう可能性がある。

鉄筋の形状が異なる場合の超音波探傷試験においては、鉄筋断面の中心部において欠陥がないことを確認し判断されたい。

平成27年4月28日

一般社団法人 CB工法協会 尾形素臣